

# 第1回平戸市総合計画 基本構想起草委員会

## 議 事 録

と き：平成28年12月1日（木）14：30～17：00  
と ころ：平戸市役所3階小会議室

開 催 日 時	平成 28 年 12 月 1 日 (木) 14:30~17:00
開 催 場 所	平戸市役所 3階小会議室
出 席 委 員 (50音順、敬称略)	今川亮生、鴨川周二、坂本鏡心、西サチ子、村上則夫 (5名)
欠 席 委 員 (50音順、敬称略)	森 健司 (1名)
事 務 局 (財務部企画財政課)	吉住財務部長、小出企画財政課長、藤山企画統計班長、峯野企画統計班係長、山口企画統計班主査 ※コンサル2名
次第	
1. 開 会	
2. 財務部長 あいさつ	吉住財務部長
3. 審議会会長 あいさつ	村上会長
4. 議事司会進行 の選任について	委員の互選により、今川委員を選任。
5. 議 題 (2)中学生のアンケートについて (1)第2次平戸市総合計画基本構想の内容等について  委 員	<p>(議題(2)、(1)の順で事務局から説明)</p> <p>※(1)は第1章から第4章を説明</p> <p>中学生のアンケートを見ると、誰もが感じていることを正直に書いているところと、行政でやっている部分と民間がやらなくてはならない部分がかちゃになり、少し勘違いしている部分もあると思う。ものの見方によってプラスとマイナスが重なっていることはありがちで、実際そのとおり。中学生は率直なので、そういう分かりやすい言葉で持っていけばいいと思う。</p>

	<p>事務局からは、特に第4章の「まちづくりの主要課題 P22」についてご意見を頂きたいということなので、課題を確認しながらご意見を頂きたい。</p>
事務局	<p>少子高齢化は10年前の計画でも出しているが、現在は少子高齢化がさらに進行しているということで、「平戸市総合戦略」の中で人口減少対策に取り組んでいく。</p>
委員	<p>目に見える形でかなり人口が減っていて、進む度合いが早くなっている。中学生アンケートの中でも、子育てを支援できないかという回答があったが、自分の親を見ていると思う。2番目の「豊かな自然と歴史的文化資源の魅力向上」は、中学生アンケートで、豊富な資源を市民は知らないのではないかという意見があった。</p>
委員	<p>一般的観光客に聞くと、平戸に来てあまり面白くないと言われる。建物などは新しくなって観光資料としてはいいと思うが、施設の中に昔ながらのものや古いものがほとんど入っていないので興味が湧かないそう。どこにもあるまちづくりや道路づくりでは魅力がないと思う。</p> <p>平戸城の見直しもしていただきたい。平戸城はほとんど原形が残っていない。南蛮式のお城ということをアピールすれば、もっとお客さんが増えるのではないかな。</p>
委員	<p>開発や整備をする中で、あったほうがいいものが削られている。町並みの景観は法律に基づいてやっているのだろうが、きれいにはなっても面白くない。いかに歴史的な価値あるものを表現し、残すか。言葉ではエキゾチックとか言うが、本当の意味での独自性に変えていけないといけない。</p>
委員	<p>最近、風邪を引く人が昔より多いとか、インフルエンザがまん延するのは、きれいにし過ぎたが故に身体が弱まって、人の強さを失ってしまった</p>

	<p>ったと指摘されている。まちも整備してきれいにし過ぎると、本来持っている独自性が標準化してしまっている。昔ながらの良さを引き出してアピールするような方向にできたらいい。</p>
委員	<p>漁村は漁村特有の魅力というか、整備されていなくても軒が連なる日本家屋や、海岸に行けば網や漁具が置いてあって、非常に魅力がある。完全に整備された町並みよりも、昔ながらの良さを残したほうが、魅力ある集落になるのではないかと思う。</p>
委員	<p>町なかの何々通りという名前は市民の声を聞いて付けたいが、そういう町なかを歩いてほしいと思う一方で、見せ方もあると思う。中学生アンケートで「京都のような」と書いていた。京都と平戸とどう違うのか、京都は大きな都だから中身も違うが、町並みだけではなく展示の仕方が違う。独自性を残し生み出すということと、見ていただく工夫が必要。</p> <p>では3番目の「産業の振興による雇用の促進」に移る。</p>
委員	<p>アゴの高騰で魚価が高くなって漁民は潤った。水産業は、周辺の加工などのいろいろな可能性が非常にある。ブランド化もあるが、販路の開拓や加工で水産資源をうまく生かせば、水産業はかなり可能性がある。</p>
委員	<p>地元のアゴが足りなくなっていて、加工関係で困っている人たちがいると言われている。そこのバランスも考えなくてはいけない。アゴをわざわざよそにやらないで、地元の平戸で全部加工しろという意見もある。</p>
委員	<p>水産業も高齢化して若年層が入ってこないという担い手不足がある。漁業という不安定な収入もあるが、まちの魅力という辺りも関係してくると思う。</p>
委員	<p>かなり前から後継者不足が言われているが、親がなるなど言ってい</p>

<p>委員</p>	<p>て、一番の原因は足元から発している。</p> <p>親のほとんどが、子どもが出世してサラリーが良くなることを第一目標にしており、子どもが少ない上によそに行ってしまう。子どもは、大きな会社に入ったりして、収入を増やして親を楽にしてやるという気持ちが強い。</p> <p>地元には、底力となる民草が必要。自分たちが平戸を興していくんだという意識を持たせなくてはいけないと思う。昔は、人のため、島のため、市民のためになるそういう人になりなさいと教育をしていたのだが、今の教育はちょっと違ってきている。</p>
<p>委員</p>	<p>教育の分野でそういう意見を出して頂ければと思う。外の分野はどうだろうか。</p>
<p>委員</p>	<p>観光の振興ということで、平戸にはいろいろな祭りがたくさんあるが、観光客が喜ぶ祭りでなくてはならないと思う。平戸の北部から南部まで珍しいお祭りがあるし、港があちこちにあって港湾建設もある程度進んでいる。お祭りは、夜がメインなので、ホテルや旅館に泊めれば観光客の足が止まって町内にお金も入る。港なら20～30人の客船で、今日は木ヶ津、今日は紐差、今日は津吉と一つのツアーとしてあちこち連れて回って、観光客をどんどん呼んでお金を落としてもらう形にはどうか。観光客は日常生活と同じようなことでは喜ばない。違った雰囲気を楽しむ。</p>
<p>委員</p>	<p>平戸にはお金を使う場がないという声が聞かれる。中学生アンケートで、平戸の町は7～8時には店が閉まって真っ暗になるから、観光客を案内したいけれどできないと書いてあった。今あるものをさらに工夫するという部分が抜けている。</p> <p>産業については、後継者の問題がかなり出てくると想像するので、人を育てるといった面が必要ではないか。</p>

<p>委員</p>	<p>後継者が減ってきていると言われているが、宮の浦の漁師のほとんどの方は、本家と同じ敷地に若い方たちが家を建てていて、跡取りがいる。三世代、四世代が一緒に住む気持ちにとっても驚き、いいことだなと思う。魚が捕れなくなっていて、元になる魚が少なくなって食べていけないので後継者が外に職を求めているという話は耳にする。漁が少ないのであれば、魚を元にした産業を立ち上げたり、いろいろなお知恵を拝借すれば、希望が見えてくるような感じがする。</p>
<p>委員</p>	<p>都会に出ているいろいろな体験をして、また地元に戻って、自分たちの子どもは平戸で育てるんだと頑張っている人はいる。企業誘致といっても、ある面では高望みなので、できることで生み出して、地元でそこに生きている人間の力を今一度作っていくということだ。</p>
<p>委員</p>	<p>船の乗組員確保が非常に難しくなっている。今、インドネシアの外国人技能実習生 27 名が働いている。幹部候補生はできるだけ地元の若者を探しているが、まき網は沖に 22～23 日間出て 1 週間休みと漁業の中でも特殊なので、なかなか乗ってくれない。</p> <p>I ターン、U ターンを積極的に進めないといけない。今は県外にリクルートに行って、水産高校卒業の 19～20 歳を 10 名引っ張ってきている。住む場所もなかなか確保できないので、公営住宅などを使えばいいのだが、独身者はなかなか厳しいところもあり、そういう環境整備も必要だ。</p>
<p>事務局</p>	<p>地元の高校を卒業した子どもたちが、船に乗らなくなった一番の原因は何か。</p>
<p>委員</p>	<p>昔は、長男は跡を取って船に乗れという感じだったが、今の時代はそうではない。高学歴になればなるほど外に出ていくということもある。</p>

事務局	<p>時代が変わってきて、22～23日間船に乗るという働き方が今ごろの若者たちの考え方にそぐわないのではないか。漁業をする上で、その期間は変えられないのか。</p>
委員	<p>それが根本的にある。業界の問題だが、なかなか難しいかもしれない。</p>
事務局	<p>船の中に娯楽施設や楽しめる場を作るスペースはあるのか。</p>
委員	<p>本船は130トン型だったが、水産庁の補助事業で199トン型の新しい大きな船になって、居住空間も個室や二人部屋と非常に良くなっている。</p>
委員	<p>若い人たちの価値感が変わって、陸が恋しいということはあると思うので、期間がもし少し短縮できれば違うかもしれない。新人はどこでもそうだが、休む暇がないという相談を受け、結局辞めた。</p> <p>生月に橋ができる前は、どうせ島から出るのなら優秀な子は長崎の学校に行く。そこで漁業から離れていく。家庭の事情やいろいろな事情で残った子たちが、今頑張っている。</p>
委員	<p>地元の子どもたちが船に乗らない理由の一つは、内航船に引き抜かれている。会社にもよるが、内航船は給料も安定している。まき網の場合は、安定していないというところもある。その辺は業界として、今後、直す必要はある。</p>
委員	<p>4番目の「自立する自治体経営の推進」に移りたい。今、度島のコミュニティの例を全市的に広げていこうと動いていて、地域ごとに予算を上げて、その中でやっていくということだが、市民が、果たして予算を使ったりできるのかという不安はある。専門家の視点が必要である。</p>

<p>委員</p>	<p>現行計画を読むと、非常に良くできている。若者から年長者まで読んでいただくので、若干難しい行政用語が入っていたり、昔の文言が固めだと思う。項目もきちんとしているが、むしろ壊すような柔らかさやしなやかさで考えていただきたい。</p> <p>第1～3章はなかなか変えがたいところがある。第4章は現行で4項目だが、4つにとらわれず、項目を増やしてもいい。形を崩してしなやかで読みやすく、読んでいて楽しいな、面白いぞというものに仕上げ頂ければと思う。今の字面や項目にとられる必要はない。</p> <p>私たちの脳は、どうしても課題や問題に目がいきがちだが、マイナスに目を留めながらそれを転換してプラスにしていくかという発想力が、この平戸のまちづくりには有効ではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>いずれにしても、今、発想を転換していくことが求められている。</p>
<p>委員</p>	<p>今の人口減少時代には、住民参加型のコミュニティは当然必要だと思っている。私の地区はまちづくり委員会が2月に発足してまだ1年足らずだが、地域の中での認知症の方の見守りネットワークや手作りのハザードマップなどいろいろな事業をしている。一つ気がかりなのは、地区が小学校区で分かれているが、産業振興などはもう少し広い視点で取り組むべき課題があるので、それがどうなるのか懸念している。</p>
<p>委員</p>	<p>住民参加型の必要性が出たが、そういう住民の部分がここで出てくることで、今の取り組みが継続的につながっていく。</p>
<p>委員</p>	<p>何かとつなげながら具体的な取り組みにすれば、面白いかもしれない。これから第2部の「基本構想」に入るが、章ごとに見ていく。</p> <p>※事務局から、第2部の「基本構想」、第1節「まちづくりの基本理念」、第2節の「まちの将来像」、第3節の「まちづくりの方向性」の説明。</p>



<p>委員</p>	<p>現行計画はスタートだったので「やらんば！平戸」になった。今回は「やるばい！」で一步前に進むべきではないか。「響」があるが、響いた市民は何人いるのか。「響きあう」は何がどう響くかを説明しているが、市民としては、ぴんと来ないのではないか。思いがあって「響きあう」にしたのだと思うが、「磨きあう」というような意味合いが要るのではないか。厳しい部分を意識させ、「みんなで輝かせていくんだ。ここで俺たちはみんな一緒に『ともに』生きているんだ」ということを、もっと強調したほうがいいと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>市長に今度の総合計画への意向や気持ちをヒアリングしたとき、委員が言われたように、「やっていくぞ」というような躍動感というか、その辺をうまく表現できればと話した。</p>
<p>委員</p>	<p>運命共同体だと思う。どの産業がどうのではなく、みんなで自分たちの住んでいる所を豊かにというのか、住んで良かったと思えるような何かがないか。市民が主役で磨いて、一緒にやっっていこうというもっと強い言葉が、第2期には必要。「ひと（HITTO）響きあう 宝島 平戸」。宝にするもしないも、そこに生きて住んでいる人間なので、そこを何か出せないか。</p>
<p>委員</p>	<p>29 ページの上の「響生、響動、響創、響感」は、ストレートに分かりやすい言葉のほういいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>「響生、響動、響創、響感」は取って付けたような感じがする。内から湧いてくる何かが必要。宝があるのではなく、宝にするんだという部分のもっと積極的な、何かもう一步が必要。</p>
<p>委員</p>	<p>交響曲の「響」なので、まとめる指揮者がいれば、「響生、響動、響創、響感」でいいのではないか。宝島の宝があるということではなく</p>

	<p>て、自分たちが掘り起こして宝にしていくということは、能動性が大事。</p> <p>委員 「響生、響動、響創、響感」はこのままでいいのではないかというご意見だが、動いていくような何か、そういったもの、やっぱやるよというのが必要。ここに書かれていることは、ほとんどが当てはまる。</p> <p>「市民と行政が一体となって」という部分は、市民が動いていない部分がある。</p> <p>委員 一人一人が、もうぎりぎりのところまで来ているという危機感を持った形にしないといけない。</p> <p>委員 市役所の中心辺りとの温度差は、こちらに来るたびに非常に感じる。それを末端にまで広める努力をして、何とか分かってもらうには、かなり忍耐がいるような気がする。あれほど言われてきたコミュニティさえも、コミュニティとは一体何なのか、なぜコミュニティが必要なのか、市の職員がいるのになぜそれに代わるものを小学校単位でしなくては行けないのか、いろいろなことがまだまだ自分のものになっていない。</p> <p>委員 市の理想として「職員が地域に出かけて」という表現が最初に書いてありましたが、出かけていくという部分が要るのかなとは思う。</p> <p>委員 委員を選ぶ時に役職で選ぶのではなくて、例えばその年代の中から頑張っている人たちに来てもらうとか、メンバーを少し変えていく部分で工夫すれば、また違ってくるかもしれない。</p> <p>委員 組織、組織と言うが、本当は多数が正義であることは通用しない。正義の正しいことを公共のために尽くそうという気持ちの人を押しやっ て、この人を大多数の人が支持するからというふうにしていくと、元の木阿弥だと思う。</p>
--	--

委員	<p>地域のことを考えるとと言っても、それはやはり封建的な考え方でそのものを考えて、地域のことだということ押し付ける人もいる。</p>
委員	<p>若い人には、そういうことが嫌で反発する人もいる。だから、いろいろな意見が出てくるように、議論しなくてはいけない。今は議論さえできないような人口減の中で、行政だけでは駄目な状況にあるというのは誰が考えても分かる。金はない、人はいない、自分たちの要求ばかりではできるはずがない。そのことを私たちがもっと分からなくてはならない。</p>
委員	<p>「平戸よかよか体操」というのがあって、なぜその体操が必要なのかという意味合いがよく分からないながらも、寝たきり予防や人の輪などを目的に集まってやっている。そのように、地域の中に今までにないものを一つ一つ立ち上げていけば、そのグループの中から自分たちの意見として、これから先、平戸をどうしていこうという取り組みが生まれそう、地元を見ていてそういう望みを感じる。全体を見て代表の方を決めるのではなく、長老のグループの人から話を伺うというやり方で志々伎町が立ち上げたようだ。いろいろな目的で立ち上げているところから話を聞けば、何か違った話が聞けるような気がする。</p>
委員	<p>今、市が各地域で地域コミュニティの説明会をする時には、既に委員やリーダーは決まっているのか。</p>
事務局	<p>誰かに最初に話す場合は、どうしても区長にならざるを得ない。最初は地域の区長を中心に説明して、それを皆さんに伝えていただいて、幅広く皆さんとディスカッションできるような体制づくりを、一緒になって、協議をしていきたいと思いますというところから始まる。</p>
委員	<p>そこで、地域住民みんなにその熱が伝わるかどうかは分からない。区</p>

	<p>長さんたちの理解度とかあり方とか、難しいところがある。</p>
事務局	<p>議会の一般質問で「協働のまちづくり」のテーマが多く、今回も3人の議員から出ている。議員の皆さんは関心をたくさん持たれていて、ある程度の理解はされている。</p>
委員	<p>私も最初からまちづくりに入っている。任期は2年なので、2年後には半分くらい変わる。区長は結構高齢で大体70歳前後の人が多く、役員20名くらいの中に60歳以下は2～3人という状況。広がりを持たないと非常にまずいと感じている。若い人はいるが、基本的に関わりがないので、意識もない。</p>
委員	<p>メンバーが一極集中になっている。</p>
委員	<p>行政と地域コミュニティの関係がよく分からない。基本的に行政が密接に関わるのはコミュニティの立ち上げまでで、後は自主性を尊重するようなどころもあるのだろうが、協働という意味合いにおいて、ある程度関わっていくほうがいい。</p>
事務局	<p>そのエリアにいる市の職員が、地域支援員という形で複数名入るシステムになっているが、地域支援員は主導している地域協働課の職員ではない。担当している地域協働課が、最初にできた度島をこんな形でうまくやっていくと各エリアに紹介して、このコミュニティではこんなこともできるよねと、いろいろな話を取りまとめていく作業までは必ず携わっている。行政がどこまでいつまで関わるかというラインは難しいが、完全に引くことはない。</p>
委員	<p>計画書ができればそれで終わり、スタートしたら行政はあまり関係ないという雰囲気だ。いろいろな行政の方と話すのが、我々は仕事で関わっているのだからコミュニティは民間でやってくださいという雰囲気だ。</p>

	<p>市は一番大きい組織で、人もいっぱいいる。職員も一市民一委員として積極的にコミュニティの中に入るべき。来ている人もいるし、熱心な人もいるが、ほとんどの方がもう自分たちは関係ないという感じ。</p>
事務局	<p>職員も住民の一人だから、意識を高く持って取り組んでほしいという希望はあるが、人によって温度差がある。</p>
委員	<p>「まちづくりの方向性」にも関わってくる。「まちの将来像」「まちづくりの方向性」はいかがか。躍動的な言葉はないか。</p>
委員	<p>「まちづくりの方向性」で、「共生のまちづくり」は基本的にど真ん中だと思うが、連携する一方で、例えば、「度島が頑張りよるけん我々も頑張らんばよ」と、地域間競争や切磋琢磨し競い合うところも非常に必要だ。</p>
委員	<p>切磋琢磨には、お互いにまたいい提案をしていくということも含まれる。「協働のまちづくり」「共生」「高め合う」という言葉が出てきた。</p>
委員	<p>民主主義の世の中では、共に競争によって自己を向上させていくことが基本だが、競争となると闘争のような表現になって、共存共栄にならない場合がある。そこをもう少し教えて、指導する人たちが言えば分かる。例えば、よそではやっていないような取り組みをする際、行政側に支援をお願いするけれども、いつも問題になるのは、他は取り組みをやっていないから支援できないということがある。伸びていく所はどんどん伸ばして、そこを目指して我々も頑張るといのもいいのかもしれないけれども、どんどん、突貫なく育てていくようなやり方が伸びるのかと思う。</p>
委員	<p>実際に競争になるとそういう形になっていく。いい事例を学ぶことができる面もある。では、第2章に移る。</p>

	<p>※事務局から、第2章「まちづくりの指標」、第1節「将来人口」、第2節「土地利用構想」の説明。</p> <p>第3章「まちづくり構想の実現に向けて」、第1節「まちづくりの基本的な考え方」、第2節「計画推進のために」の説明。</p> <p>委員 言葉の表現として、市民全体が理解できるか心配。年配の方が多い中で、ハード重視、ソフト重視という言葉も、それ何だろうというのがある。市民に浸透しないという部分も、それと関りがある。</p> <p>平戸の場合、ある面ではそういう旧態依然の部分を利用しながら、新しいものも両方やっていくという何かが要るのかと思う。市民に理解してもらうために、出かけて行くみたいなことで、そういう初歩的な部分を常に心がけながら、忘れないようにしていかななくてはいけない。市民レベルをある程度理解しないと難しい。</p> <p>生涯学習関係では、かなり平戸は頑張っていると思うが、「人を大切に作るまちづくり」が意外と理解されていない。ある病院で、初めて会った患者さんが二人いて、年配の人があいさつのつもりで「どっから来ましたな」、「どがんありますな」と聞くと、聞かれた若い人は、「なぜあなたに私のプライバシーを言わなくてはいけないのだ」と怒った。年配の人はプライバシーをどうしようというのはさらさら無いのだが、人を大切にするって何だろう、昔ながらのそういう平戸のあいさつが本当に理解されているのかと思う。平戸に来た方でその地域が良ければあいさつもするし、助けてくれてありがたいという人もいるし、地域の中に入りづらい、もう平戸に住みたくないという両方の意見がある。人と人とは接する時の心構えは、あらためて勉強するというのを付け加えていく必要がある。</p>
委員	<p>私の町内でも、昔は、近所に越してきたら、よろしくお願ひしますとあいさつされていたのだが、今は全然知らんふりだ。どちらからお出ですかと聞くと、プライバシーの侵害だと言って突っ放す。プライバシ</p>

<p>委員</p>	<p>一の考え方が違う。</p> <p>人と関わりたくなくて、自分できちんと飯を食っていけるという人は、別に関わらなくてもいいわけで、その辺の価値観の問題ではないか。中学生アンケートの中にもあったが、あいさつができるまち、人と出会いのあいさつを一声かけるまちであってほしい。あいさつで、お互いが学び合えるし、災害で避難する時に声をかけやすくなって、いろいろなことが広がっていく。あいさつをしない方たちもいるので、そういう市民としての学習をこの中に入れてほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>私が平戸に越して来た時、どちらのどの辺から来たか、年齢、何をしていたか、全て聞かれた。私もかたくなに突っぱねず、それなりの話をしたが、普通、人のことを尋ねる時は、自分が名乗ってからというのが常識だと思うのだが、自分のことは一切話されない。その方が悪い人なのではなく、この辺の常識なのだと思うが、若い方であれば嫌だろう。以前に歯科医院を紹介したら、先生に個人的なことをいろいろ聞いて、私はその先生に謝りに行った。ここの常識は外では通用しないということ、を少しは教えて差し上げたい。</p>
<p>委員</p>	<p>交流人口を増やしていこうという時代の中で、旧態依然のそういう感覚は、平戸の印象が悪くなるので危ない。</p>
<p>委員</p>	<p>平戸の人は、ごめんくださいと言って、外で待っていると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>地区によって違う。鍵を掛けたら、あの家は鍵が掛かっていると地域中に広まるという感じ。体験学習などで若い方が来るので、そこを少しは分かってほしい。</p>
<p>委員</p>	<p>私は一人暮らしで、町内の人たちが勝手に家に入ってきて、一人なら要らないだろうと物を取って行ったり、確かに地域ではそういう変な考</p>

	<p>え方が通用している。悪習は早く排除して、いい面でのコミュニティを作りたい。</p>
委員	<p>そういう濃密なコミュニティが嫌で若い奥さんたちは結構出ていく。</p>
委員	<p>平戸の足りない部分が見えてきた。そのことに気付く学びが必要。現行計画の最初に、学習が人を大切にすると書かれているし、教育目標などにも出ている。しかし実践面で抜けているところがあるので、そこは協調したほうがいい。第4章に移る。</p> <p>※事務局から第4章「まちづくりの基本目標」を説明。</p>
委員	<p>現行計画は、素晴らしいくらい領域的には全て網羅されているが、平戸は何を一番大切にしたいのか、私たちの生き方も何を大切に生きていくのかと考える。全て実現できればよいし、しなければいけないのだが、そこではやはり、その中でも一番大切にしたいものを幾つか挙げて、ポイントにしたほうが実現しやすいのではないかと思います。個人的には、施策の何本かの大きな柱になればいいと思う。委員の皆様は、平戸はこれを大切にしようというものを一つか二つ挙げていただければ、絞り込みができるのではないかと。</p>
委員	<p>私が大切にしたいものは、一言で言えばスローライフ。自分で野菜を作って、時には釣りに行ったり、自分で料理したり、散歩をしたり、平戸に限らず地方や田舎は、ゆったりした時間の中で健康的な生活ができるところが魅力だ。I ターンの人々はそれを求めて来ている。</p>
委員	<p>平戸の活性化を図るためには、何かの産業を後押ししないといけないので、それは昔から言われている観光より他にはない。歴史を大事にして、その歴史があまり本格的専門的になりすぎないようにして、平戸らしいところを出して皆さんを引き付ける観光を推し進めてはどうかと思</p>



	<p>う。</p>
委員	<p>「平戸の古の魅力を発信する」という感じか。観光でずっとやってきているが、傾いてきている。</p>
委員	<p>観光は大きな産業だが、平戸の歴史やロマンは割と地域が限られているので、それにプラスして、平戸の中部、南部、大島、度島などは第一次産業の現場だから、その辺も組み合わせた体験型の観光を積極的に取り入れれば、奥行きのある観光地になる。</p>
委員	<p>私が先ほど言ったように、船であちこち港を渡って連れて回る。祭りも何でも見せたり参加してもらったり、グルメも何もとアピールしていけばいい。地区ごとにこれが自分たちの祭りだというのを出してもらって、観光客の人たちが見たり、参加できる形にすれば、どこの地区でも生月も度島も大島も平戸市が全部一つになってできるのではないかな。</p>
委員	<p>地区でまとまって自分たちで作り上げて何かをやろうという時の平戸の結束は、長崎市などよりかなり高い。人口が少ないが故にできることはある。それが結束する力ではないかな。</p>
委員	<p>私は、「人」だと思う。そして、平戸は第1次産業が大事だと思う。ある方は「夢とロマンの島 平戸」、南部の方が「夢もロマンもない平戸」と言われた。観光の話が出たが、北部だけを意識している気がする。その時、平戸は第1次産業ということのある程度のベースにしないと、みんなが幸せになれない。人口が少ないが故にできることはあるし、それが結束する力ではないかな。「人」がつながりになって、「人」が産業を興す。平戸市には、やはり人が必要だと思うので、私は、「人」を強調したい。ハードルの高い部分もあるとは思いますが、年配の方もそれなりの柔らかい脳みそと心を持たないといけないし、若い方も諦めないで一生懸命訴えていって、地域には見守るような何かが必要。</p>

委員	<p>世界遺産や国・県の遺産に皆さん一生懸命だが、美的価値の無いただ古だけの物を県の指定資産にしてバス停まで作っても、ほとんど誰も来ていない。本当に歴史的な価値があるのか、それも確実ではない感じなので、もう少し考えて決めなければいけない。</p>
委員	<p>平戸には歴史的なことを深く見ていく人が少ないのではないかと。松浦史料博物館にしても、まだまだたくさんのもので調べられずに残っている。見せ方や説明の工夫も必要。次に「こどもの夢」に進む。</p> <p>※事務局から「こどもの夢」掲載について説明。      作文は冊子 46～47、163～167 ページに載せているが、10年前に書いた同じ方に書いてもらうのも面白いのではないかと。</p>
委員	<p>その方は平戸にいらっしゃるのか。</p>
事務局	<p>わからないが、外に出ていけば平戸市を客観的に見られるかもしれない。</p>
委員	<p>それは確かに面白いアイデアだと思う。</p>
委員	<p>小学校低学年の人はまだ市内にいらっしゃるだろうが、全部いるとは限らないが、同じ人の作文も入れるということは面白いかもしれない。</p>
事務局	<p>内部でももう一度話をして、どうするのか決めたい。</p>
委員	<p>いろいろな取り組みの中で、平戸らしさをいかに残し、生み出すという願いがある。その中で、今住んでいる「人」を育てていって、昔の考えにこだわっていると変わっていかないので、昔の考えにこだわらない人たちの存在も大事。課題としては、今の急激な人口減少の中での生き</p>

<p>委員</p> <p>議事</p> <p>(3) その他</p> <p>事務局</p>	<p>残り策で、平戸で飯が食えるにはどうしたらいいかということでつながっていけばと思う。</p> <p>今日は起草委員会の1回目だったが、本当に楽しい会議で、うれしく思う。さらなる起草委員会もよろしく願います。</p> <p>今日伺った意見等を踏まえて、基本構想に書き込み等を行い、次回、皆様方にお見せする時には完全な形ではできてないかもしれないが、今回で区切りを付けてまたお示しして、最終形をご確認いただくような流れになる。次回については、電話や文書等の連絡で日程を含めて調整させていただきたい。</p> <p>会議終了</p>
---	---